

## [研究ノート]

## 池大雅と『仙仏奇踪』

池大雅(1723~1776)は、日本の「文人画」(近年「南画」という呼称が用いられる)を代表する江戸後期の京都の画家であります。名は勤、のちに無名に改名。字は公敏、のちに貸成に改名。大雅(大雅堂)、竹居、三岳道者、九霞山樵などと号しました。

大雅の作品は幸に数多く遺っており、大雅研究の基本図書『池大雅作品集』(作品集『池大雅画譜』の縮刷版。中央公論美術出版、1960年)では、811件の絵画と書蹟が掲載されている程です。その後も、彼の作品がたくさん発見されています。

平成11年の冬、私は大阪の個人宅で大雅研究にとって極めて重要な二つの作品を拝見する機会を得ました。一つは「赤壁之図、癸亥之冬、平安池大雅」の款記があり、「東山池無名、貸成」の白文聯印が捺された『赤壁図』(紙本墨画、63.2×26.4センチ)です。寛保3年(1743)の冬、大雅21歳のときの作品であり、現存する最も若い時期の作品です。問題点を含むこの『赤壁図』については、別の機会に論じてみ

たいと思っています。もう一つの作品は、小幅の人物画で、大雅の制作法を考える上で貴重な資料であります。今回、この新出の人物画を紹介することにします(図1『許宣平図』、一幅、紙本墨画淡彩、33.5×19.7センチ)。

本図は、一人の老人が一挺の鋤を左肩に担ぎ、右手で竹杖をつき前屈みで山径を下るところが表されています。鋤の一端には薪の束と書籍らしきものがくくり付けられています。中国風の服装をしたこの老人の腰の帯には一挺の斧が差され、盃が紐で帯に結びつけられています。薪、鋤、斧からして、彼は「樵夫」と思われます。背後の崖縁には一本の古木の柳の樹があり、手前の岩陰には草が生えています。顔面と崖の側面部にわずかに淡い朱彩が施されていますが、主に水墨による白描画で描かれています。老樵夫の右脚の後方に、「消揺於巒光水景間(巒光水景の間に消揺す)」の白文長方印(図2)が捺されています。この「消揺於巒光水景間」の印章は、大雅27歳の寛延二年(1749)の作である『赤壁

両遊図屏風』『天産奇葩図巻』『陸奥奇勝図巻』に遊印として使用されているので、本図の制作は、その頃と考えられます。

本図(図1)は、中国明時代の万曆30年(1602)に出版された木版本『仙仏奇踪』(洪応明編、神仙と仏祖の伝記とその図像を収録したもの)の挿絵「許宣平」(図3)を手本にして描かれています。ただし『仙仏奇踪』の「許宣平図」にあった崖縁の岩陰の草は、本図では画面手前中央に移され、また柳の樹の全体を描き、背景の空間を広くとり、一部に改変を加えています。また挿絵になかった書籍らしきものを描き加えているのは大雅の趣向と思われれます。彼はこの老樵夫を文人隠者に見立てているのでしょうか。

許宣平とは、唐の新安歙の人。景雲(710~711)中、城陽山の南塢に隠れ、時に薪を行商したという。詩人李白は許宣平の詩を「仙詩」と賛えたと伝えられています。

万曆35年(1607)刊の木版本『三才図会』にも、同じ「許宣平図」が収録されていますが、これには『仙仏奇踪』の「許宣平図」にあった岩陰の草は表されていません。このことによって、大雅が『仙仏奇踪』に依って描いたことは確かです。そうしますと、この本の図像を基にした大雅作品があるはずですが、明石藩の儒者梁田蛻巖の題詩が

ある『達磨見梁武帝図』(図4、『池大雅作品集』17番)は、寛延二年(1749)、大雅27歳の作ですが、この「達磨像」は『仙仏奇踪』収録の中国禪宗六祖「慧能」の挿絵(図5)を基にして描かれたものです。ここでは「慧能図」にある背景のものは一切省略されています。梁田蛻巖は「慧能像」を「達磨像」と見なし、「達磨見梁武帝」と題しました。また水墨画の『莊子夢蝶図』(『池大雅作品集』508番)は、『仙仏奇踪』の「譚峭図」にヒントを得て描いたものと考えられます。これら以外に、『仙仏奇踪』を利用した大雅作品があるかもしれません。

大雅は元文2年(1737)15歳のとき、二条樋口町で扇屋「待買堂」を開き、明版の『八種画譜』に倣って扇面に「唐画」を描いて生計を立てたと伝えられています(『大雅堂年譜』『池大雅家譜』)。新潟大学の武田光一教授は、大雅がこの外に『芥子園画伝初集』『列仙全伝』『顧氏画譜』『三才図会』などの明清の画譜画本類を絵手本にして制作を行っていることを詳細に実証されました(『池大雅における画譜による制作』『美術研究』第348号、1990年)。

『仙仏奇踪』を絵手本にして絵画制作を行った画家としては、宗達、光琳、竹田、鉄斎が知られていますが、ここに大雅を加えることができます。(林進)

図1 許宣平図 大雅筆



図2 白文長方印「消揺於巒光水景間」



図3 『仙仏奇踪』より「許宣平図」



図4 達磨見梁武帝図 大雅筆



図5 『仙仏奇踪』より「慧能図」

